

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493200107	事業の開始年月日	平成19年6月1日
		指定年月日	平成19年6月1日
法人名	社会福祉法人 幸済会		
事業所名	高齢者グループホーム かわしまの里		
所在地	(〒241-0011) 横浜市旭区川島町1882-1		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年1月31日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月16日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

協力診療所に基本的に毎日、情報を送るなど日々の健康管理に力を入れております。また、受診に関しても基本的には施設職員で対応しており、早い対応やご家族様の負担軽減に繋がっているかと思っております。行事などでは、季節ごとの施設内行事の他にも、法人全体での行事（旅行やお祭りなど）も多く、種類は豊富です。目の前に大きな公園があり、散歩や外気欲など気分転換を図るのに最適な環境です。公園で行われる夏祭りや地域のボランティアさんなどを通じ、少しずつ地域の方との交流も増えてきております。

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年2月19日	評価機関 評価決定日	平成26年4月16日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所概要】  
この事業所は、相鉄線鶴ヶ峰駅より徒歩12分程の場所にあり、周辺は住宅地で、道路を挟んで向かい側には、広々とした柵谷公園がある。この公園は遊具やベンチなどがあり、近隣の方や児童や園児の遊び場所となっている。利用者が散歩の際には地域の方達との交流できる場である。グラウンドも隣接しており、利用者も参加する地域のお祭りの開催場所になっている。木造2階建ての2ユニットである。居間、居室とも、大きな窓から自然光が十分に取り入れられ明るい。台所や事務所はカウンター式で扉が無く、開放感・安心感がある。2階のユニットでは小型犬を飼っており、利用者を和ませている。

## 【理念及び私たちの援助方針に沿ったケア】

会社運営理念の「温かい心、冷たい頭、優れた技能」を職員の心得として念頭に置き、各ユニットの職員が考えた援助方針、1階は思いやりの気持ち、丁寧な言葉を使い、笑顔の生活支援など、サービスについて、2階はADLの軽い方達が好きなことを活動してもらうために事故の予防を掲げている。利用者の大きな歌声や食事作りの手伝いする活動的な姿を見ることが出来た。散歩など外出を多くしている。法人主催の1泊のバス旅行に元気な利用者数名が参加するなど、それぞれ楽しい生活をしている。

## 【健康管理について】

事業所の母体である東川島診療所に毎日、利用者の「健康状態報告書」を送り、健康状態のチェックを行なっている。必要に応じて随時診療を受けることができる。更に看護師が毎週来所し、健康状態の把握と医療のアドバイスをしている。他の病院への診療には職員が付添の支援をしている。歯科は法人の特養に来る歯科、訪問歯科、連携歯科医に希望に応じて受診するなど、医療を充実させている。

## 【防災訓練の充実】

3.11の震災時の対応を基に、法人合同で本部に消防署に立ち会ってもらい、年4回、訓練を行なっている。また、各階廊下にマニュアルを備えている。2階には非常持ち出しのリストや収納場所の表を用意し、職員がいつでも行動を起こせるようにしている。備蓄品とは別に医療品一式をザックに入れて、いつでも持ちださせるよう、事務室にヘルメットと共に備えている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	高齢者グループホーム かわしまの里
ユニット名	一茶

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「慣れ親しんだ地域で、家族や地域との交流を通しながら、家庭的な雰囲気の中でゆっくり、一緒に楽しく過ごして頂く」という理念を中心にご利用者のペースで生活が行えるようになってきております。	私たちの援助方針「慣れ親しんだ地域で、家族や地域との交流を通しながら、家庭的な雰囲気の中でゆっくり、一緒に楽しく過ごして頂く」や法人の運営理念を念頭に置き、フロアごとに職員が考えた、サービスについて(1階)、事故の予防の方針(2階)を揚げ、利用者本位に支援を行なっている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的という部分では未だ多くありませんが、地域の祭りに参加したり片付けのお手伝い、ボランティアさんによるコンサート、夜間想定の方針訓練に参加して頂いたりしております。	町内会に加入し、どんど焼きや盆踊りに参加し後片づけに協力している。散歩のときに地域の方や子どもたちとの交流している。近隣の保育園児が毎月来訪し、手遊びやプレゼントをしてくれる。近隣の中学校の体験学習で生徒が来訪している、地域のボランティアがマンドリン演奏に訪れる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の体験学習の受け入れの他に、地域包括支援センターの職員さん方と世界アルツハイマーデーにチラシを配布したりして、認知症理解の啓発をさせていただきました。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の行事や非常災害時の取り組みなどに良いアドバイスを頂き、実際に地域住民との合同の訓練に結びつけております。	運営推進会議は年に5回、利用者、家族、地域包括支援センター職員、地域住民(町内会役員)、管理者、職員の参加で開催している。事業所の運営や事故報告、活動状況などや外部評価について報告し、意見交換を行なっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所を通しての緊急のケースの受け入れや、実質単身扱いの方のケースなど、良くご相談を頂いております。	旭区の高齢者支援課の担当者に、事故報告や外部評価の報告をしている。区や地域包括支援センターの担当者や空き情報についてのやりとりをしている。また認知症の啓発運動に参加し協力している。旭区の「鶴ヶ峰地区支えあい連絡会」や「鶴ヶ峰地区、旭中央地区高齢者福祉入居施設連絡会」に参加して情報交換を行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の理念を掲げ、勉強会を活用しながら、身体拘束ゼロへ取り組んでおります。玄関に関しては、ご家族様にご理解を頂きながら、施錠を行っております。	身体拘束排除の方針をフロアごとに掲示している。法人の研修や年1回身体拘束排除・高齢者虐待防止の取り組みについて、勉強会を行なっている。特に最近はスピーチロックについて話し合っている。交通量の多い道路に面しているため安全確保のため家族の同意を得て、玄関は施錠している。フロア入口は開錠しているが出入りについては職員が付き添っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員には毎年、勉強会を通じて虐待防止に向けた研修を行い、実践しております。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通し学んでおりますが全ての職員には伝えきれていない現状があります。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、基本的に施設見学をして頂き、サービスや料金についての説明をさせて頂いております。その際に、不安な点や分からない事を必ず伺い、その上で契約を通し、再度丁寧に説明する事を心掛けております。契約書・重要事項説明書の雛形も窓口配置し、自由に目を通せる様にしております。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置を行っておりますが、なかなか活かされていません。現状があります。毎年、外部評価時の家族アンケート結果を全家族に配布させて頂きました。	家族の来訪時や事業所の全体や個人の状況を知らせる毎月の便りを送り意見や要望を聞いている。また、外部評価、利用者家族等アンケートを玄関に置き、家族にも配布して意見を求めている。運営推進会議でカラオケに行きたいとの意見にも対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者からの意見や情報の発信は多くありますが、職員からの提案という部分では日々の申し送りが中心となっており、定期的な会議は不足していると思います。	月1~2回行なう「社員ミーティング」や毎日の朝・夕の申し送り時に運営に関して職員から意見や提案を聞いている。管理者は出勤・退勤時に、事務室などで職員に声をかけ意見を聞くなど、希望や提案を言いやすくしている。工作レクの実施を提案して材料などを揃えてもらい、利用者と一緒に貼り絵作りをしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が直接個々との面談などは殆ど行えておりませんが、管理者が話す機会を多く持っております。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修カリキュラムを中心に個々のスキルアップの機会を多く作って頂いております。一部の社員しか行えておりませんが、少しずつ外部研修も参加が行える様になってきております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度は法人内のGHで交換研修を行っております。またネットワーク作りという部分では、地域包括開催の高齢者福祉入居施設連絡会やGH連絡会などに参加しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の入所前は、基本にご利用者様に中の雰囲気を感じて頂き、スムーズに入所出来る様に配慮しております。また、入所時のアセスメント等を通じ、不安の解消等に対応しております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に、ご家族様のご意向などを必ず伺うように心がけております。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者を中心に先ず、ご本人様に慣れて頂く様なケアを職員間に徹底させています。また医療との連携や歯科受診、など、今までの診療が途切れない様にも努めております。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は行って頂き、出来ない事をお手伝いさせて頂くという事を心がけております。多くのご利用者様が持てる力を発揮できる様に努めております。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や状態が優れない時などの連絡を通して情報の共有に努めております。信頼関係に関しては、築けている家族となかなか良いコミュニケーションが取れないご家族様もおられます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月お手紙にて、ご家族様にご様子を報告しております。来た手紙に関しては、一緒に読んだりする事を心掛けております。極一部の方は馴染みの場所やお墓参りなどに行っております。また以前の施設から行事のお誘いがある方などは交流を大切にしております。	親戚の方や、以前入居していた施設の知人が訪ねて来ることがあり、お茶をだし歓談してもらっている。また以前の施設に行くことやお墓参りに職員と一緒に出かけている。電話の取り次ぎ、来た手紙を代わりに読みあげたり、居室の壁にかざったり、年賀状のやりとりの支援もしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活での場面やお手伝い、レクを通じてご利用者様同士の関係を支援しております。あまり、人と接するのが得意ではない方も、職員がお話の橋渡しをしたりしております。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから、ご連絡する事は殆どありませんが、ご相談などがある際は確りに対応させて頂いております。また、長期入院などで退所された方に関しても行ける範囲で面会に行かせて頂き、ご様子を観させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当職員と計画作成担当者を中心にアセスメントを行い、意向の把握に努めている。ご本人様に意向が伺えない時は、職員・ご家族様で話し合いを行っております。	職員を居室担当制にしている。担当者が利用者の心身状況や要望・思いなどを把握して「アセスメント・モニタリングシート」に記入して情報共有している。思いや意向の表明がしにくい方についての希望は、日々の行動や表情から推し測っている。また家族から聞き、支援に活かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集にて把握に努めております。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員と計画作成担当者を中心にアセスメントを行い、意向の把握に努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様、担当職員、計画作成担当者が中心となって行っております。またアセスメント作成やモニタリングはほぼ全職員に実施してもらい、職員の意見も反映しています。	入居時は初回アセスメントで情報を把握し、1か月間心身や生活の様子を観察してモニタリングをしている。家族の意見を聞きカンファレンスで職員と話し合って最初のケアプランを作成する。居室担当職員の「アセスメント・モニタリングシート」をもとに本人、家族、医師・看護師の意見を踏まえてケアプランを作成している。プランのサービスの内容に沿った経過記録をとり、それを基にモニタリングを行って、6か月もしくは状況の変化が激しいときは随時見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有に関しては、連絡ノート・申し送り等で行えていると思います。最近では、申し送りの他に午前・午後の小ミーティングでの情報共有も行っております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護認定の更新手続きや特養の申し込みの相談、支援を行っております。また、協力病院以外の通院や外出なども、多くは施設職員で対応しております。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方による音楽会や町内会によるお祭りや敬老の日のお祝い、地域の園児達の定期訪問などご利用者様を楽しませて下さっております。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力病院が中心ですが、協力病院外はご本人様・ご家族様と相談して決めております。	利用者全員のかかりつけ医は、近くにある事業所の母体であるの東川島診療所になっている。毎日、利用者の「身体健康状況報告書」を送って健康状態をチェックしてもらっている。必要があれば随時診療を受けることができる。診療所の看護師が毎週来所して、健康チェックや医療についてのアドバイスをしている。他の科目の病院の診療は、原則として職員が付き添って支援している。訪問歯科や法人のかわしまホームに来所する歯科を、また、連携歯科医院には必要に応じて受診するなど、利用者の希望により支援している。マッサージ師も来所している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護の他に、身体精神状況報告書というものを毎日診療所の看護師・医師向けにFAXしており、情報の共有とより適切な対応を受けられる様に支援しております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	小まめな面会を心がけ、情報の収集に努めております。また、ムンテラに関しても、必ず参加をさせて頂き、早期の退院が可能となる様に努めております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に重度化した場合の指針を提示し、ご理解を頂いております。またこの際に、終末期に向けた指針もお伝えしております。</p>	<p>入居時に家族・利用者に「重度化した場合における対応に係る指針」の内容を説明し同意を得ている。利用者の重度化が進んだ場合は指針に同意を得たうえで、家族、医師、事業所が話し合っており対応している。事業所内での医療行為がなく、自然なかたちで最期を迎える状況であれば看取り介護を行なう。看取りの実施例は過去にあり、現在、1名の方が看取り介護計画書によるケアを行なっている。法人でターミナルの研修を行なっているが、職員全員は受けていない。</p>	<p>昨年度に引き続き、人生観まで変えてしまう人の死に対して、看取りについての心構えや基本的な注意事項、事後の職員の精神面のケア、医療機関への連絡、次への備えとして全職員に研修をすることなどを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年に2度全職員に救命講習を受講し、学んで頂いております。また、事務所にも緊急時の対応を掲示しております。</p>	/	/
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今年度は、3ヶ月おきに震災訓練を行っており、多くの職員が対応出来る様に取り組んでおります。</p>	<p>年4回、法人全体で地震を想定して、自主防災訓練を行っている。夕刻の暗くなった時間に夜間想定訓練も行っている。法人本部に消防署が立ち会っており指導を受けている。各訓練とも、計画を作成し、実施報告並びに反省点を記録して、次回に役立てている。各階の廊下にマニュアルを備えている。2階には非常持ち出しのリストや収納場所の表がある。事務室には医療品の持ち出し用ザックが用意され、ヘルメットも備えられている。災害用の水、食料、備品、など事業所外の倉庫に、職員を含めて3日分以上の備蓄をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年2回ある接遇研修にて、声掛けや対応の基本及び応用を全職員にて学んでおります。実践が不十分な職員には、その都度の説明と指導を行っております	年2回接遇の研修を行なっている。利用者の呼び方は、基本は「さん付け」で話しかけている。管理者は職員の言葉使いなど気になるときは、それとなく注意している。個人の時間の過ごし方は自由で、ビールを飲んだり喫煙については禁止せずにできるだけ希望に沿っている。自室の冷蔵庫に嗜好品やお菓子を置いてある。個人情報の書類は事務室の施錠できる書棚に収納している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望などがあつた際は、管理者まで話が通るように、職員が口頭やメモで必ず残す様にしている。買い物なども、極力一緒に行動し、本人に選んで頂く様に支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力希望に沿った柔軟な対応を心掛けているが、受診や職員の人員配置の都合上、希望に沿えていない事もある。入浴などは、本人の意思を優先している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際などは、おしゃれの支援を心掛けているが、施設内では基本的にその人が希望される身嗜みを尊重しており、決まった服になってしまう事も多い。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	多くの利用者様に配膳や下膳、洗物や片付け等は行って頂いております。調理に関しては極一部のみ行っております。	メニューと食材を専門業者に配達してもらい職員が調理し、利用者と同席して同じ食事を食べながら介助している。利用者は調理の補助などを手伝っている。月1回は、食材を購入してもんじゃ焼きやケーキづくりを楽しんでいる。外出に出かけたり、出前をとったりしている。誕生日や新年会、節分は、ちらしや手巻き寿司など行事食を提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取記録に関しては毎日記録し、ご本人様にあった形態（ミキサー、お粥、トロミ、プリンなどの補食）を提供しております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助を要する方の口腔ケア確りと実施できており、一部の方は歯科衛生士の方とも連携を図っております。自立の方には声掛け等行っております。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時の誘導の他に、その方が落ち着かない際のトイレ誘導など柔軟に対応しております。	排泄・排便チェック表でパターンを把握して、タイミングを見て、また、食事前、外出時の時間に声かけや誘導をしてトイレでの排泄を支援している。全介助でも朝晩はトイレでの排泄が出来るようにしている。自立の方は3割ほど、あとの方はパッドかおむつを使用している。夜間にポータブルトイレを使用する方もいるが、無理のない程度にトイレに誘導している。浴室とトイレが隣り合っているので、排泄の失敗時には処理しやすい。トイレ表示は大きな文字でわかりやすい。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や散歩など運動の機会を増やし便秘予防に心掛けている。便困に関しては、きめ細かく職員が情報を共有し、便困時には下剤での対応を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴の曜日は設けず、行える時に声を掛け、その日の本人の気分を優先しております。ご利用者様から希望があった際は極力入浴できる様に調整しておりますが、介助が必要な方や本人の意向が聞けない方などは職員の都合で行う事もございます。	基本的には週2回の入浴を心がけている。職員の人員配置の都合で時間や回数など柔軟に対応して、清潔保持の努力をしている。1人で入りたい方には見守りで対応している。菖蒲湯や柚子湯で季節を感じてもらっている。異性介助をいやがる方には同性介助で対応する。入浴をしたがらない利用者には、声掛けや時間を変えて勧めるようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意向や疲労感に注意し、静養を促したりしております。また、夜間帯なども眠れない方には、リビングでお話をしながら温かい物や補食を提供したりしております。		
47		服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や目的などは確りと確認し、支援しているが薬の副作用という点では全ての薬について把握しているわけではありません。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほとんどの利用者様には、お手伝いなどの役割分担が出来ております。気分転換に関しては、散歩や行事が中心となっております。施設内レクに関しても歌やカードゲーム、体操など個々の好きなものに参加されております。一部の方は、嗜好品（お酒、たばこ）は個別に毎日、楽しまれております。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望という点では、実施出来ない事が多いとおもいますが、事前に希望がある際は叶えられる様に調整しております（買い物、補聴器メンテなど）。	天候が許す限り毎日散歩をしている。事業所前の大きな公園に行くことが多い。車椅子の方にも対応している。個別に、デパートで買い物などの外出支援もしている。川崎大師参詣、お花見、苺狩り、平塚七夕祭りなどに出かけている。法人のバスを使用して、同法人のグループホームと合同で希望者4～5名が年に2回、1泊旅行に職員と出かけている。家族が参加することもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方ですが、毎月授受を交わし、現金を個人で管理されている方もおります。買い物に行く時は、職員が全て行うのでは無く、その方がレジの方と対応出来る様に品物を出して頂いたり、職員がお金を渡し、お支払いして頂く等の工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様から電話の希望があった際は、掛けられる様に支援しております。手紙に関しては、書く事は少ないですが、届いた手紙を側で読み聞かせております。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの部分に施錠箇所が無く、どこでも自由に出入り出来る様になっております。季節感においては、利用者様と一緒に作成した物を飾りつけしております。	リビングは採光が良く明るい。温度や湿度、換気に気を配り、利用者も手伝う掃除も行き届いている。テーブルが適度に配置され、テレビを見たり、ソファで休んだり利用者の寛ぎの場となっている。廊下は広く手すりが配備され、安全に配慮している。壁には、利用者と職員が共同でつくった季節の飾りや日めくりカレンダー、廊下には行事の写真が飾ってある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席等は、互いが不快にならない様に気を遣っております。また、ソファを好まれたり、テーブルを好まれる方など各々好きな場所で過ごされております。共用部分で一人になる所はございません。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に、処遇上危険と判断しない物は何でも持ち込んで頂いております。皆様、今までの馴染みのものなどを持ち込まれております。	居室は、空調室外機、カーテンレール、クローゼットが備え付けられている。利用者は、防災カーテン、空調設備、照明器具、ベッド、寝具など生活必需品やタンス、チェスト、机、椅子、冷蔵庫、CDプレーヤーや、家族の写真など自分の使い慣れたものや好みのものを持ち込んで居心地の良い部屋にしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	殆どの部分がバリアフリーになっており、各々が自由に生活しております。転倒などの事故予防の為、リビングなどの空間に障害となる物を少なくしたりしています。		

事業所名	高齢者グループホーム かわしまの里
ユニット名	芭蕉

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「慣れ親しんだ地域で、家族や地域との交流を通しながら、家庭的な雰囲気ですっきり、一緒に楽しく過ごして頂く」という理念を中心にご利用様のペースで生活が行える様になってきております。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的という部分では未だ多くありませんが、地域の祭りに参加したり、ボランティアさんによるコンサート、夜間想定の方難訓練に参加して頂いたりしております。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の体験学習の受け入れの他に、地域包括支援センターの職員さん方と世界アルツハイマーデイにチラシを配布したりして、認知症理解の啓発をさせて頂きました。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の行事や非常災害時の取組みなどに良いアドバイスを頂き、実際に地域住民との合同の訓練に結びつけております。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所を通しての緊急のケースの受け入れや、実質単身扱いの方のケースなど、良くご相談を頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の理念を掲げ、勉強会を活用しながら、身体拘束ゼロへ取り組んでおります。玄関に関しては、ご家族様にご理解を頂きながら、施錠を行っております。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には毎年、勉強会を通じて虐待防止に向けた研修を行い、実践しております。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通し学んでおりますが全ての職員には伝えきれていない現状があります。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、基本的に施設見学をして頂き、サービスや料金についての説明をさせて頂いております。その際に、不安な点や分からない事を必ず伺い、その上で契約を通し、再度丁寧に説明する事を心掛けております。契約書・重要事項説明書の雛形も窓口に配置し、自由に目を通せる様にしております。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置を行っておりますが、なかなか活かさきれていない現状があります。毎年、外部評価時の家族アンケート結果を全家族に配布させて頂きました。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者からの意見や情報の発信は多くありますが、職員からの提案という部分では日々の申し送り時などが中心となっており、定期的な会議は不足していると思います。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が直接個々との面談などは殆ど行えておりませんが、管理者が話す機会を多く持っています。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修カリキュラムを中心に個々のスキルアップの機会を多く作って頂いております。一部の社員しか行えておりませんが、少しずつ外部研修も参加が行えるようになってきております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度は法人内のGHで交換研修を行っております。またネットワーク作りという部分では、地域包括開催の高齢者福祉入居施設連絡会やGH連絡会などに参加しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の入所前は、基本のご利用者様に中の雰囲気を感じて頂き、スムーズに入所出来る様に配慮しております。また、入所時のアセスメント等を通じ、不安の解消等に対応しております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に、ご家族様のご意向などを必ず伺うように心がけております。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者を中心に先ず、ご本人様に慣れて頂く様なケアを職員間に徹底させています。また医療との連携や歯科受診、など、今までの診療が途切れない様にも努めております。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は行って頂き、出来ない事をお手伝いさせて頂くという事を心がけておりますが、未だご利用者様に行って頂ける部分があると感じています。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や状態が優れない時などの連絡を通して情報の共有に努めております。信頼関係に関しては、築けている家族となかなか良いコミュニケーションが取れないご家族様もおられます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人宛に来た手紙などは、本人の側で読み上げたりしています。また、電話の利用に関しても職員が手伝いをしたりして、行える様にしています。施設からも毎月お便りを送っております。入所前の施設に遊びに行く事もございました。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いやレクを通じてご利用者様同士の関係を支援しております。あまり、人と接するのが得意ではない方も、職員がお話の橋渡しをしたりしております。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから、ご連絡する事は殆どありませんが、ご相談などがある際は確りに対応させて頂いております。また、長期入院などで退所された方に関しても行ける範囲で面会に行かせて頂き、ご様子を観させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当職員と計画作成担当者を中心にアセスメントを行い、意向の把握に努めている。ご本人様に意向が伺えない時は、職員・ご家族様で話し合いを行っております。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集にて把握に努めております。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員と計画作成担当者を中心にアセスメントを行い、意向の把握に努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様、担当職員、計画作成担当者が中心となって行っておりますが、一部のご家族様とは書類でのやりとりとなる事もございます。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有に関しては、連絡ノート・申し送り等で行えていると思います。最近では、申し送りの他に午前・午後の小ミーティングでの情報共有も行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護認定の更新手続きや特養の申し込みの相談、支援を行っております。また、協力病院以外の通院や外出なども、多くは施設職員で対応しております。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方による音楽会や町内会によるお祭りや敬老の日のお祝い、地域の園児達の定期訪問などご利用者様を楽しませて下さっております。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力病院が中心ですが、協力病院外はご本人様・ご家族様と相談して決めております。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護の他に、身体精神状況報告書というものを毎日診療所の看護師・医師向けにFAXしており、情報の共有とより適切な対応を受けられる様に支援しております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	小まめな面会を心がけ、情報の収集に努めております。また、ムンテラに関しても、必ず参加をさせて頂き、早期の退院が可能となる様に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に重度化した場合の指針を提示し、ご理解を頂いております。またこの際に、終末期に向けた指針もお伝えしております。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年に2度全職員に救命講習を受講し、学んで頂いております。また、事務所にも緊急時の対応を掲示しております。</p>	/	/
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今年度は、3ヶ月おきに震災訓練を行っており、多くの職員が対応出来る様に取り組んでおります。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年2回ある接遇研修にて、声掛けや対応の基本及び応用を全職員にて学んでおります。実践が不十分な職員には、その都度の説明と指導を行っております		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望などがあった際は、管理者まで話が通るように、職員が口頭やメモで必ず残す様にしている。買い物なども、極力一緒に行動し、本人に選んで頂く様に支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力希望に沿った柔軟な対応を心掛けているが、受診や職員の人員配置の都合上、希望に沿えていない事もあります。入浴などは、本人の意思を優先しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際などは、おしゃれの支援を心掛けているが、施設内では基本的にその人が希望される身嗜みを尊重しており、決まった服になってしまう事も多いです。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いなどは行って頂いているものの、一部の方が中心なので、もっと多くの方に携わって頂く事を検討していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取記録に関しては毎日記録し、ご本人様にあった形態（ミキサー、お粥、トロミ、プリンなどの補食）を提供しております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助を要する方の口腔ケア確りと実施できており、一部の方は歯科衛生士の方とも連携を図っております。自立の方の確認は不十分な事もあります。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時の誘導の他に、その方が落ち着かない際のトイレ誘導など柔軟に対応しております。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便困に関しては、きめ細かく職員が情報を共有しているが、下剤の調整がメインになってしまい、食事や運動による基本的な予防という点では不十分と思われます。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴の曜日は設けず、行える時に声を掛け、その日の本人の気分を優先しております。ご利用者様から希望があった際は極力入浴できる様に調整しておりますが、介助が必要な方や本人の意向が聞けない方などは職員の都合で行う事もございます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意向や疲労感に注意し、静養を促したりしております。また、夜間帯なども眠れない方には、リビングでお話をしながら温かい物を提供したりしております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や目的などは確りと確認し、支援しているが薬の副作用という点では全ての薬について把握しているわけではありません。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いなど行える方には行って頂いております。気分転換に関しては、散歩や行事が中心となっております。施設内レクに関しても歌やカードゲーム、体操など個々の好きなものに参加されております。嗜好品は個別に楽しまれております。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望という点では、実施出来ない事が多いとおもいますが、事前に希望がある際は叶えられる様に調整しております。（買い物など）		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方ですが、毎月授受を交わし、現金を個人で管理されている方もおります。買い物に行く時は、職員が全て行うのではなく、その方がレジの方と対応出来る様に品物を出して頂いたり、職員がお金を渡し、お支払いして頂く等の工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様から電話の希望があった際は、掛けられる様に支援しております。手紙に関しては、書く事は少ないですが、届いた手紙を側で読み聞かせております。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの部分に施錠箇所が無く、どこでも自由に出入り出来る様になっております。季節感においては、その時々を飾りを壁に張り付けたりしております。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席等は、互いが不快にならない様に気を遣っております。また、ソファを好まれたり、テーブルを好まれる方など各々好きな場所で過ごされております。共用部分で一人になる所はございません。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に、処遇上危険と判断しない物は何でも持ち込んで頂いております。皆様、今までの馴染みのものなどを持ち込まれております。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	殆どの部分がバリアフリーになっており、各々が自由に生活しております。転倒などの事故予防の為、リビングなどの空間に障害となる物を少なくしたりしてます。		

目 標 達 成 計 画 (H 2 6 . 2 外部評価指摘事項)

事業所名 かわしまの里

作成日 H26年4月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	今年度、看取りに関しての勉強会は実施しているが、参加職員が社員以上の一部であったりと、職員全体で看取りに関しての知識や心構えなどが浸透していない。	全職員を対象とした看取りケアの勉強会を行い、看取りケアに関する知識や心構えをチームとして共有する。	全職員対象の看取りケアの勉強会の実施。 ①6月13日、②9月5日 2日設け、どちらからかに必ず参加する。また、勉強会後も感想などをヒヤリングし、看取りケアへの不安や疑問など解消していく。	H26.6～26.9

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。